12 月号 ごあいさつ
先人先哲から学ぶ人間形成の指針
「知・情・意」が育む木材・住宅業界の未来とは！？

株式会社 山西 あすなろ会相談役 代表取締役会長 西 垣 洋 一

人間を構成する三つの根本的な心的作用の構造

私たちが物事を理解し、判断し、行動するためには、「知・情・意」という三つの力が欠かせません。これらは個人の成長だけでなく、組織や業界全体が持続的に価値を生み出すための基盤となります。「知」は、物事を正しく理解し、適切に判断する力。「情」は、他者や社会、自分自身への思いやりや感情。「意」は、知と情で得た理解や思いを、具体的な行動に変える力を意味し、「知」と「情」が揃った上で、「意」の力が実践されることで、初めて持続的な価値の創造が可能となります（右図 参照）。

夏目漱石の『草枕』の一文に学ぶ
「智に働けば角が立つ。情に棹させば流される。意地を通せば窮屈だ」
智（知）に働けば角が立つ：理屈や知識だけで物事を判断すると、他人と衝突しやすくなる。
情に棹させば流される：感情や思いだけで行動すると、周囲に流され自分の判断が揺らぎやすい。
意地を通せば窮屈だ：自分の意志やこだわりばかりを優先すると、融通が利かず苦しくなる。

漱石は、この三つの力（知・情・意）をバランスよく使うことの大切さを示しています。どれも偏らず、適切に組み合わせることで、判断や行動が調和し、円滑に進むということを説いています。

「知・情・意」が育む木材・住宅業界の未来

この「知・情・意」の考え方は、木材・住宅業界においても非常に重要です。木材は住宅や建築の基盤を支える資源であり、その品質や流通、活用の方法は業界全体の信頼や価値に直結します。

「知」は、木材の特性や加工技術、乾燥や保管方法、流通システムに関する正しい理解を意味します。同じ樹種であっても木目や含水率によって扱い方は変わり、適材適所に木材を活かす判断や最新の加工技術、流通の最適化を理解して活用することが、品質の安定や顧客満足に直結します。また近年、森林科学・環境工学・データ分析など、科学的知識の重要性が飛躍的に高まっており、ドローンを用いた森林資源のモニタリング、AI による伐採時期の最適化、木材乾燥技術や接着技術の進化は、まさに「知」の結晶と言えます。

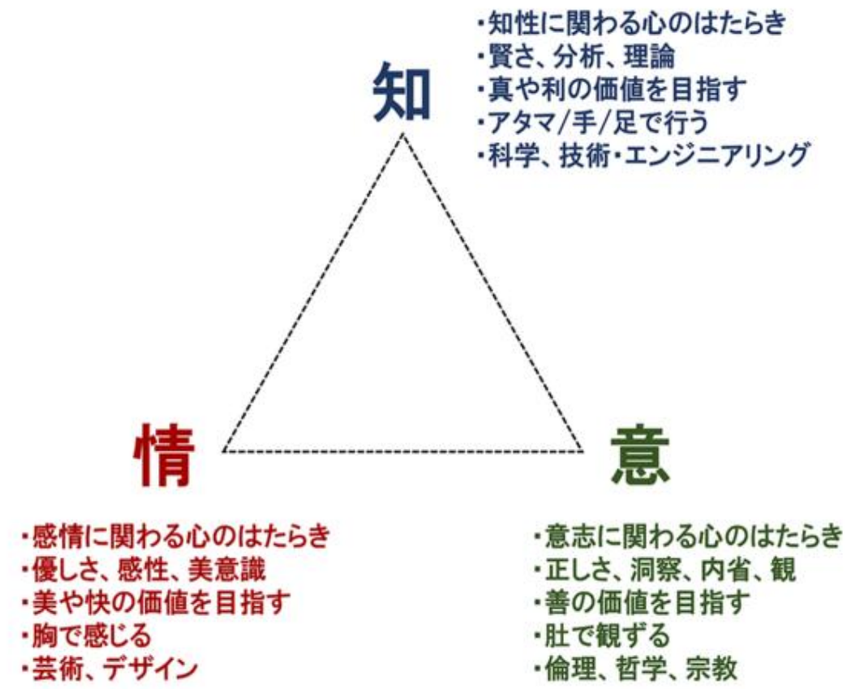
「情」は、木材が人にもたらす心理的な豊かさと、森林に対する社会的な責任感に集約されます。関わるすべての立場に共感し、調和を意識した行動を取ることで、業界全体の信頼性が高まり、持続可能な発展が可能となります。地域材の活用や持続可能な森林管理、現場で働く社員や職人の意見を尊重する運営も、情の力による成果の一例です。情があることで、知で得た理解は単なる効率や利益の追求にとどまらず、社会的な価値の創造に変わります。

「意」は、課題解決と未来の創造に向けた強い決意と、それを実現する具体的な実行力を指しています。品質向上の取り組み、新しい加工技術や施工法の導入、地域材の活用等は、意志をもって行動することで成果となります。経営者や現場リーダーが方向性を示し、社員や職人が主体的に工夫や改善を行うことで業界全体が成長します。又、意は挑戦や継続の力でもあります。新しい取り組みを実践し続けることで、木材・住宅業界は革新し、地域社会や顧客に新しい価値を提供できるのです。

「知」が技術や判断力を支え、「情」が人や地域との関係を築き、「意」が未来を切り拓く。この三つの力が揃うことで、業界は地域社会に持続可能な価値を生み出すことができます。「知・情・意」を意識した取り組みは、品質の安定や効率的な流通、人や地域との信頼関係の強化に直結し、持続可能な家づくりと産業の未来を支える重要な鍵となります。互いに学び合い、協力することで、木材・住宅業界はより強く、より価値ある産業として次の世代に引き継がれていくでしょう。

2025 年 12 月吉日

（図）人間力の３つの要素 「知・情・意」とは！



知	認知・情報処理 １） 思考・論理・分析 ２） 計算 ３） 言語
情	状態と判断 １） 判断：快・不快、戦う・逃げる、好悪 ２） 状態：喜怒哀楽、楽観・悲観、気分の高揚・憂鬱
意	主観・再帰的（自分で自分を） １） 直観・無意識 ２） データの考察・ディスカッション ３） 意見・解釈 ４） 意味や意義の判断、価値観・信念 ５） 意思決定